

平成27年度
男女が共に支える社会に関する
意識調査報告書

平成27年

岩 手 県

「平成27年度 男女が共に支える社会に関する意識調査報告書」

目 次

I 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 調査票の回収結果	1
4. 調査主体	1
II 回答者の基本属性	
1 性別・年代別構成	2
2 既婚・未婚・離(死)別構成	3
3 回答者の職業	4
4 配偶者の職業	5
5 共稼ぎ配偶者の職業	6
6 家族構成	7
7 子供の有無	8
8 子供の人数と末子の年齢	9
9 住んでいる地域	10
III 調査テーマによる分析	
1 男女平等について	11
2 女性の社会参画について	39
3 家庭生活及び結婚・家庭観について	49
4 職業について	113
5 仕事と家庭・社会活動の両立について	136
6 ドメスティック・バイオレンス(DV)などについて	141
7 男女共同参画施策について	150
IV 基礎集計表	156
V 自由記入欄の内容	223
VI 資料(調査票)	

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

男女共同参画の実現に向けて課題となるテーマについて調査を行い、現状の県民意識や行政に対するニーズを把握するとともに、今後の男女共同参画施策推進の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の設計

- (1) 調査対象及び標本数： 岩手県内に居住する満20歳以上の男女3,000人
- (2) 抽出方法： 層化多段無作為抽出法
- (3) 調査方法： 郵送回収法
- (4) 調査期間： 平成27年5月8日～平成27年5月31日
(平成27年6月5日到着分まで有効とした)

3. 調査票の回収結果

- (1) 回収数： 962人(32.1%)
- (2) 有効回収数： 962人(32.1%)
- (3) 調査対象地域と回収の分布： 次表のとおり

今回調査

平成24年度調査

対象地域	自治体名	標本数	有効回収数	有効回収率(%)	対象地域	自治体名	標本数	有効回収数	有効回収率(%)
盛岡地域	盛岡市	350	338	30.7	盛岡地域	盛岡市	350	296	39.5
	八幡平市	200				八幡平市	200		
	滝沢市	250				矢巾町	200		
	紫波町	100							
	矢巾町	200							
県南地域	花巻市	250	391	34.0	県南地域	花巻市	150	288	41.1
	北上市	200				北上市	150		
	遠野市	100				奥州市	200		
	奥州市	300				一関市	200		
	一関市	300							
県北地域	久慈市	50	78	26.0	県北地域	野田村	100	71	35.5
	野田村	100				一戸町	100		
	二戸市	50							
	一戸町	100							
沿岸地域	大船渡市	150	140	31.1	沿岸地域	大船渡市	100	120	34.3
	釜石市	100				釜石市	100		
	宮古市	100				山田町	150		
	山田町	100							
地域無回答			15		地域無回答			6	
合計		3000	962	32.1	合計		2000	781	39.1

4. 調査主体

岩手県環境生活部 若者女性協働推進室

< 報告書を見る上での注意事項 >

- ① 比率(パーセント)の表記は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、比率の合計が100.0とならない場合がある。なお、一つの設問に対して二択以上の回答を求めるものは、比率の合計を記載しない。
- ② 各設問集計の対象者(集計対象となる前提条件を満たしているもの)は「N」としてその数を表記する。
- ③ 今回の調査で得られた集計データの詳細は、「IV 基礎集計表」の各表を参照。
- ④ 時系列比較を行っているものは、平成24年12月に実施したものを「前回調査」(または「24年度調査」)、平成21年12月に実施したものを「前々回調査」(または「21年度調査」)、平成18年12月に行ったものを「18年度調査」と表記した。各数値は、平成24年12月にとりまとめた前回調査報告書の記載を用いた。
- ⑤ 調査票に記載した設問ないし、選択肢の表現について、長文のものを適度に簡略化して表記している。

Ⅱ 回答者の基本属性

II 回答者の基本属性

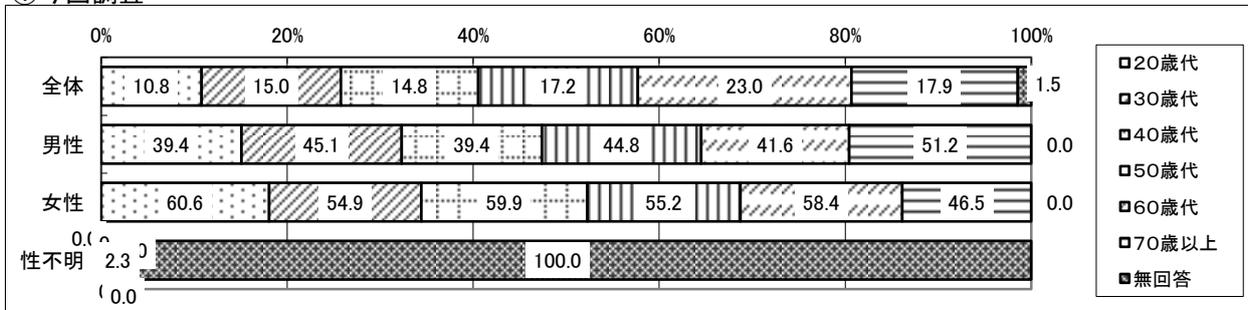
1 性別・年代別構成

(N=962 男性=416 女性=527 性不明=19)

今回調査では、男性416名(43.2%)、女性527名(54.8%)、性不明19名(2.0%)から回答があった。年代別にみると、60歳代(23.0%)が最も多く、次いで70歳以上(17.9%)、50歳代(17.2%)、30歳代(15.0%)、40歳代(14.8%)、20歳代(10.8%)と続く。

前回調査と比較すると、30歳代(15.0%)は2.7ポイント増加し、60歳代(23.0%)は2.5ポイント増加している。その他の年代はわずかつ減少した。

①今回調査



②前回調査(全体N=781、男性N=345、女性N=425、性不明N=11)



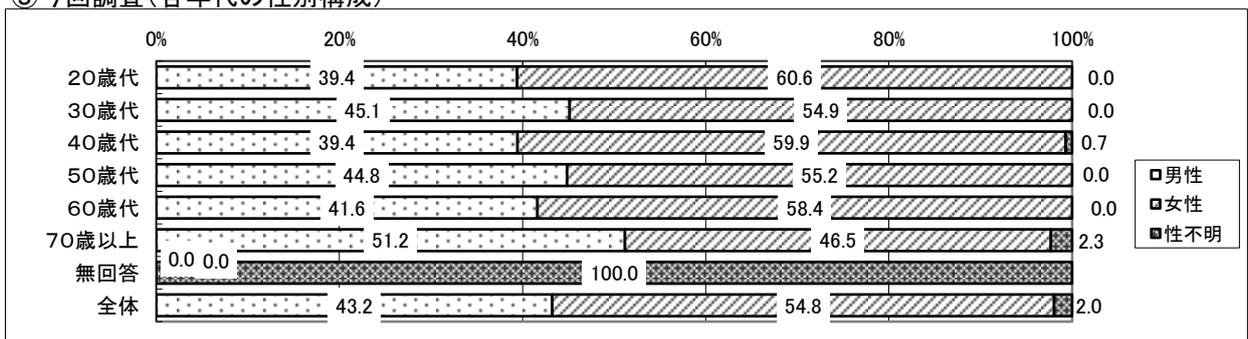
各年代ごとの性別比をみると、今回調査全体では男性43.2%、女性54.8%を占める。

前回調査と比較すると男性(43.2%)は1ポイント減少し、女性(54.8%)は0.4ポイント増加している。

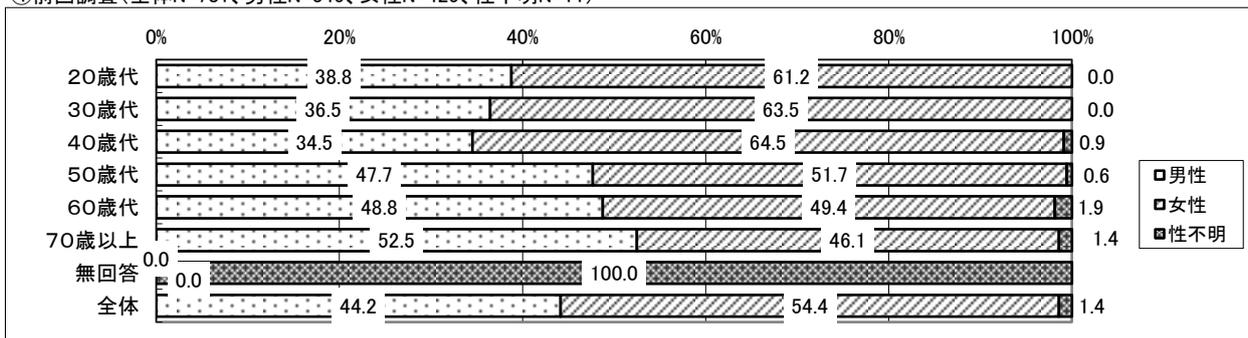
男女別でみると、男性では70歳以上(51.2%)が最も多く、女性では20歳代(60.6%)が最も多かった。

30歳代では男性(45.1%)は前回調査(36.5%)より8.6ポイント増加し、女性(54.9%)は前回調査(63.5%)8.6ポイント減少している。

③今回調査(各年代の性別構成)



④前回調査(全体N=781、男性N=345、女性N=425、性不明N=11)



2 既婚・未婚・離(死)別構成(全体N=962 男性=416 女性=527 性不明N=19)

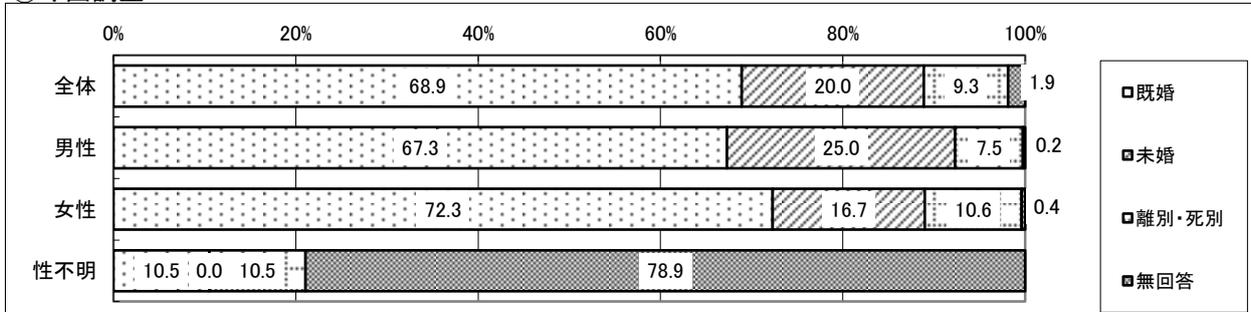
今回調査全体では、既婚は68.9%、未婚は20.0%、離別・死別は9.3%である。

前回調査と比較すると既婚男性(67.3%)は6ポイント減少、既婚女性(72.3%)は2.3ポイント減少している。既婚と回答したものは20歳代以外全ての年代で減少している。既婚20歳代(24.0%)は前回調査より9.7ポイント増加している。

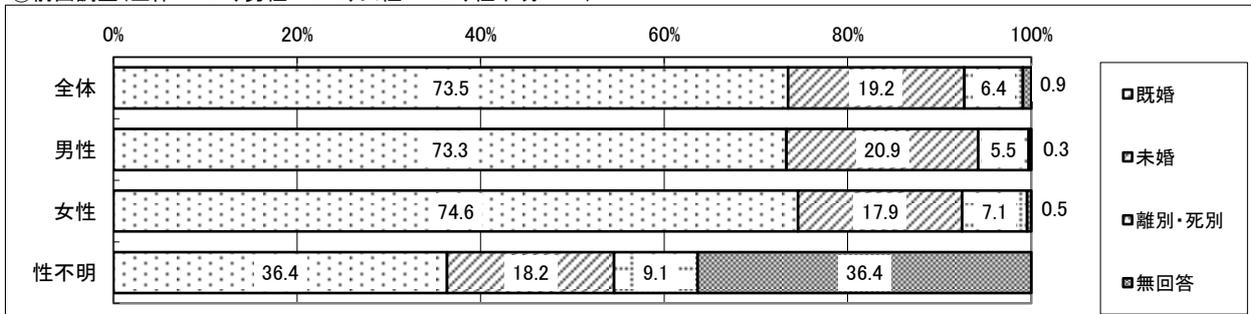
未婚男性(25.0%)は4.1ポイント増加、未婚女性(16.7%)は1.2ポイント減少している。

年代別にみると、既婚と回答したもので最も多いのは50歳代(83.0%)、最も少ないのは20歳代(24.0%)である。

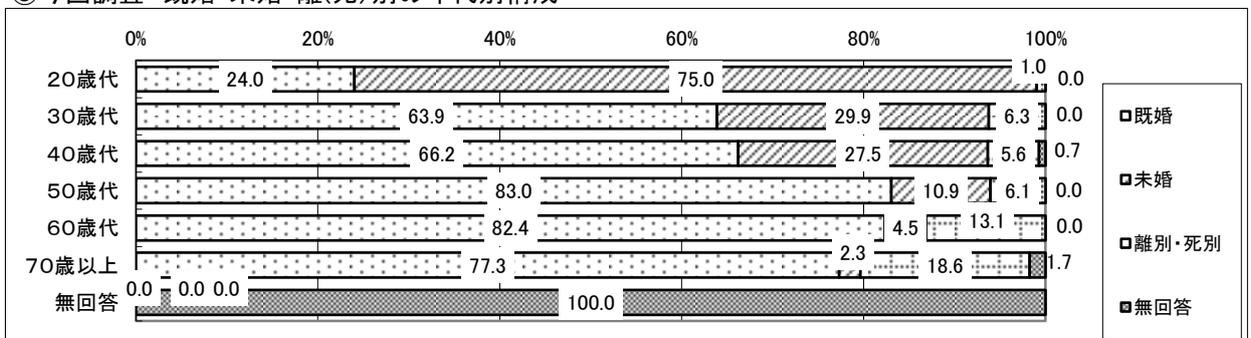
①今回調査



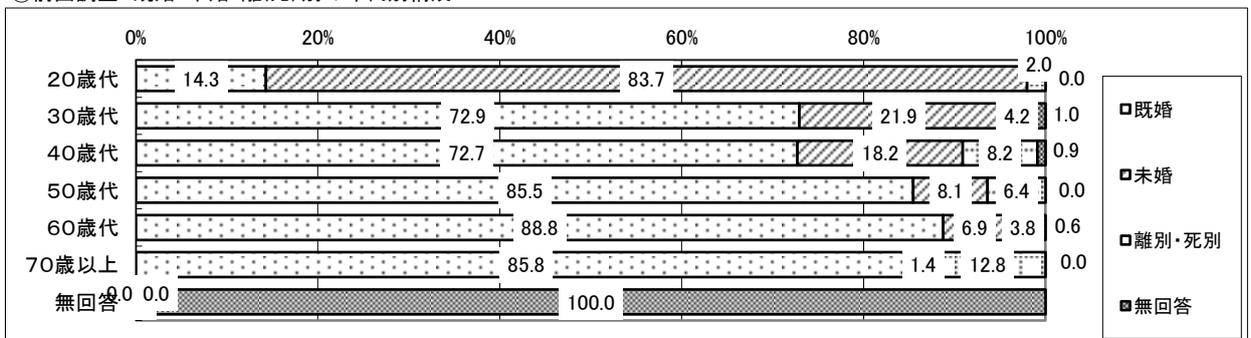
②前回調査(全体N=781、男性N=345、女性N=425、性不明N=11)



③今回調査 既婚・未婚・離(死)別の年代別構成



④前回調査 既婚・未婚・離(死)別の年代別構成



3 回答者の職業(全体N=943、男性N=416、女性N=527、性不明N=19)

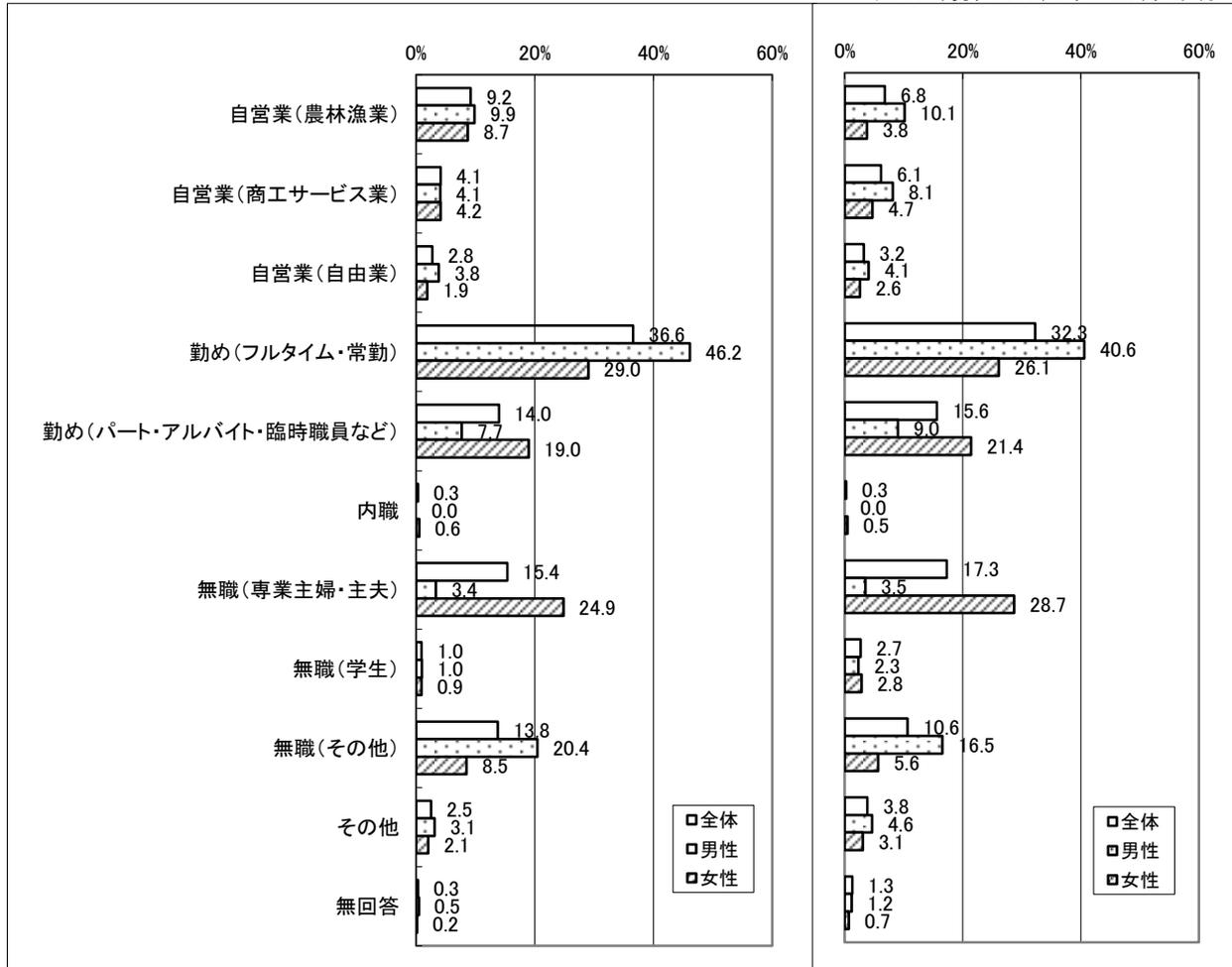
回答者の職業で最も多いものは「勤め(フルタイム・常勤)」(36.6%)であり、次いで「無職(専業主婦・主夫)」(15.4%)、「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」(14.0%)と続く。
この傾向は前回調査同様である。

前回調査と比較すると「勤め(フルタイム・常勤)」(36.6%)は4.3ポイント増加している。一方「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」(14.0%)は1.6ポイント、「無職(専業主婦・主夫)」(15.4%)は1.9ポイント減少している。

①今回調査(但し、グラフから性不明を除く)

②前回調査

(N=781、男性=345、女性=425、性不明=11)



※「その他」の内訳は省略する。

4 配偶者の職業 (N=661 男性=280 女性=381)

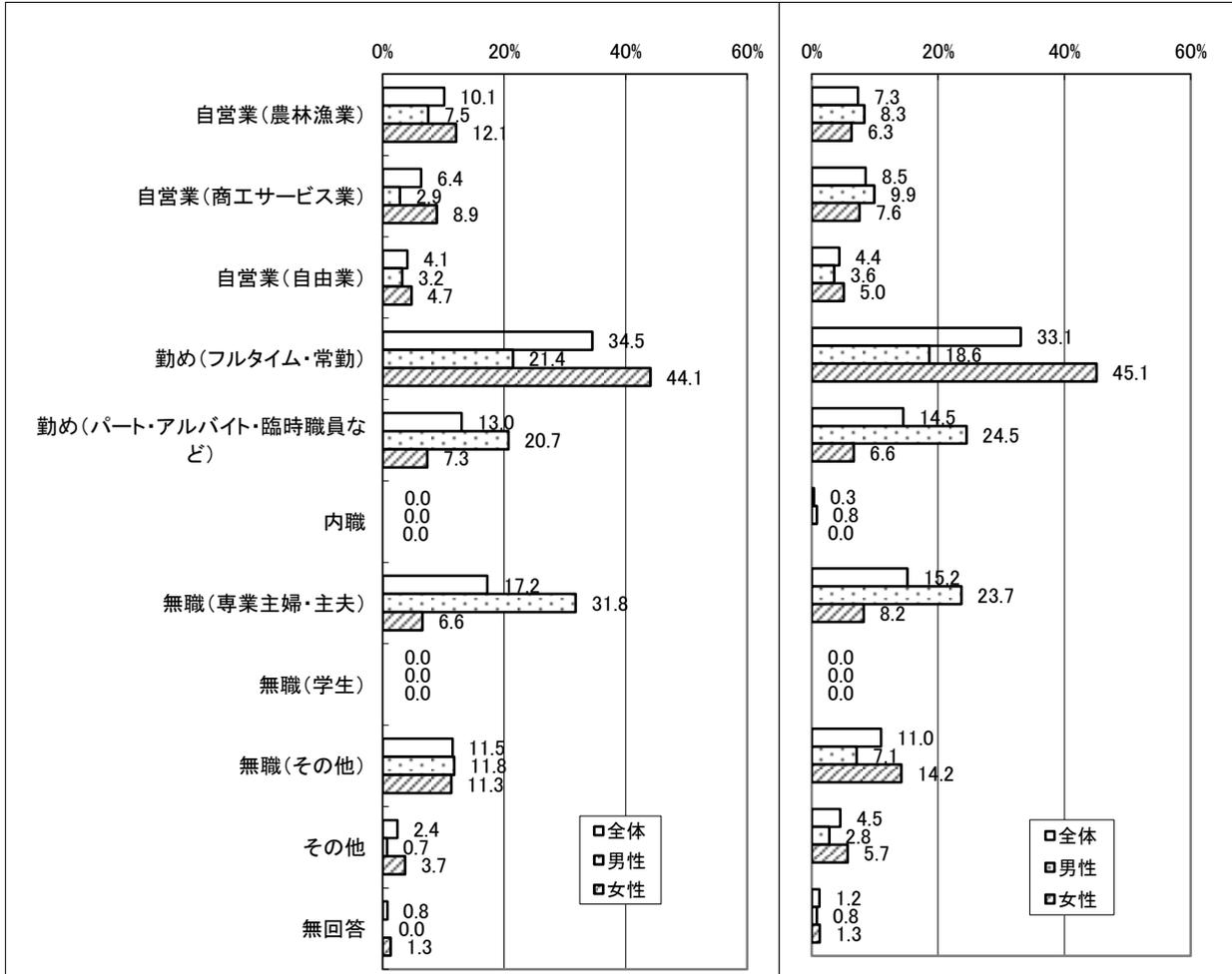
配偶者の職業で最も多いのは、「勤め(フルタイム・常勤)」(34.5%)であり、次いで「無職(専業主婦・主夫)」(17.2%)、「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」(13.0%)と続く。

この傾向は前回調査と同様である。

男女別にみると『回答者男性／配偶者女性』では「勤め(フルタイム・常勤)」(21.4%)が最も多く、前回調査(18.6%)より2.8ポイント増加している。前回調査において1番目であった「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」(24.5%)は、今回調査では20.7%であり、3.8ポイント減少している。

① 今回調査の配偶者の職業 (但し、グラフから性不明を除く)

② 前回調査の配偶者の職業



※「その他」の内訳は省略する

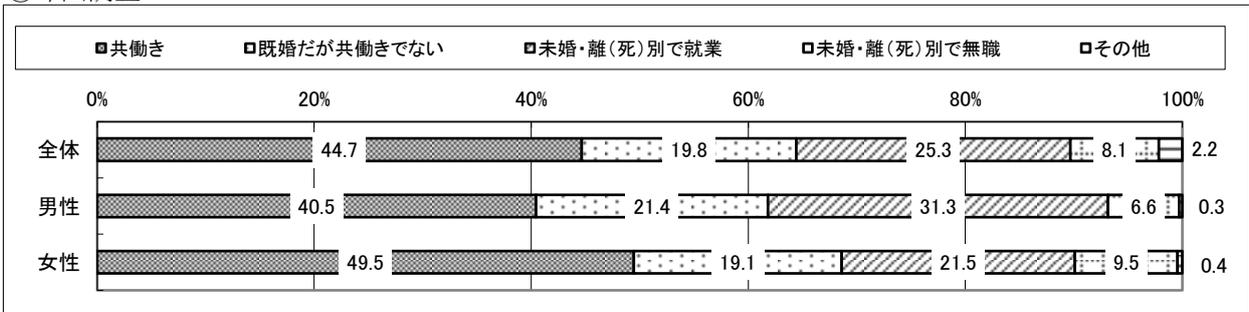
5 共働きの配偶者の職業(N=471 男性=158 女性=313)

今回調査において、回答者全体に占める共働きの割合は44.7%であった。
 前回調査より3ポイント増加している。

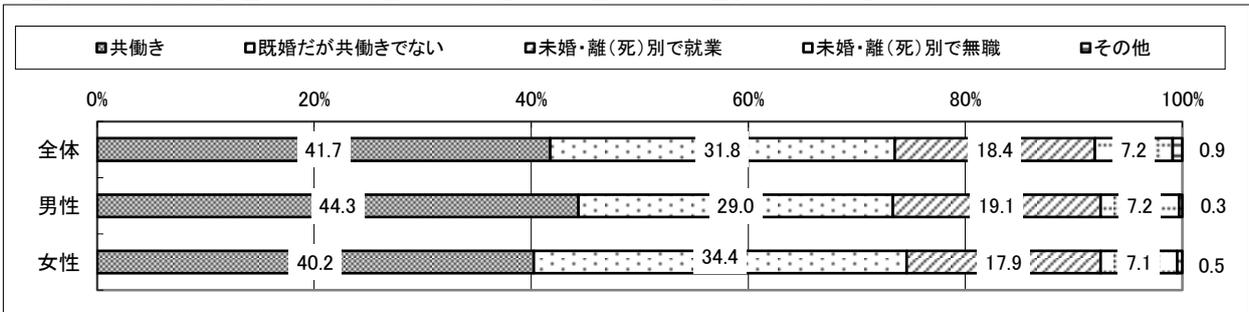
共働きの配偶者の職業で最も多いのは「勤め(フルタイム・常勤)」(48.4%)であり、前回調査と同様である
 が、11.5ポイントと大幅に増加している。

※『共働き』は回答者が既婚で、職業をもつ(「無職」と「無回答」を除く)ものであり、その配偶者の職業が「自営業(農林漁業)」「自営業(商工サービス業)」「自営業(自由業)」「勤め(フルタイム・常勤)」「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」「内職」「その他」のいずれかであったものを示す。

① 今回調査

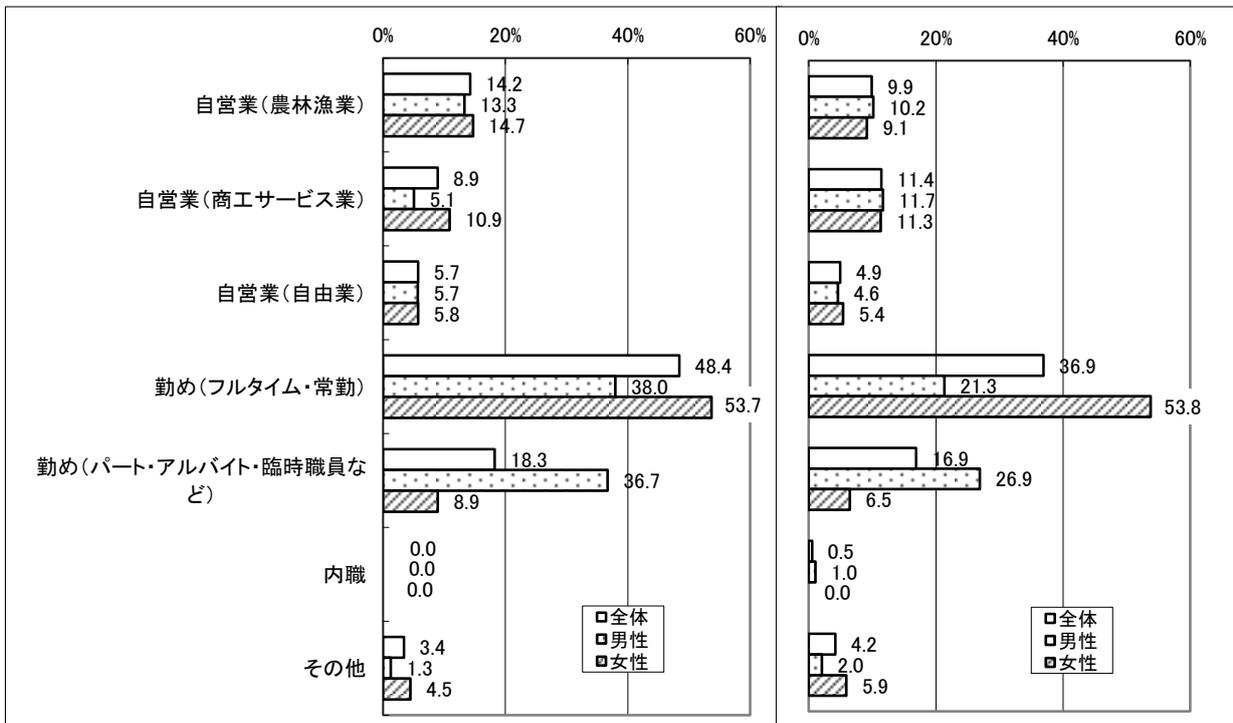


前回調査(共働きの割合: 全体N=781、男性N=345、女性N=425、性不明N=11: 但し、グラフから性不明を除く)



② 共働きの配偶者職業
 今回調査

前回調査



6 家族構成

(N=943 単身世帯=80 夫婦のみ=204 二世世代世帯=389 三世世代世帯=212 その他=54 無回答=4)

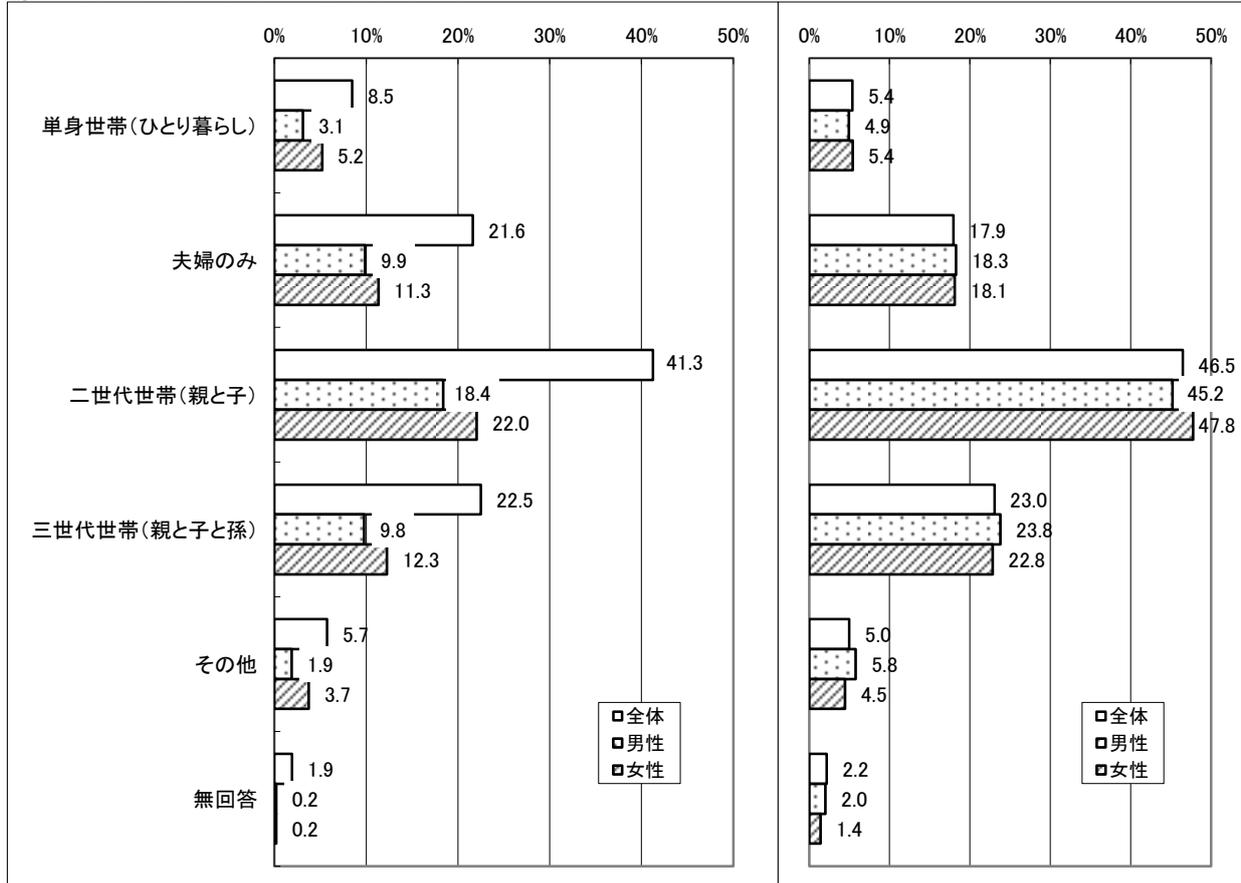
家族構成については「二世世代世帯(親と子)」(40.4%)が最も多く、次いで「三世世代世帯(親と子と孫)」(22.2%)、「夫婦のみ」(21.3%)と続く。

この傾向は前回調査同様である。

前回調査と比較すると、「二世世代世帯(親と子)」(40.4%)は6.1ポイント、「三世世代世帯(親と子と孫)」(22.2%)は0.8ポイント減少し、「夫婦のみ」(21.3%)は3.4ポイント増加している。

①今回調査(但し、グラフから性不明を除く)

②前回調査(全体N=781、男性N=345、女性N=425、性不明N=11)



※「その他」の内訳は省略する

7 子どもの有無

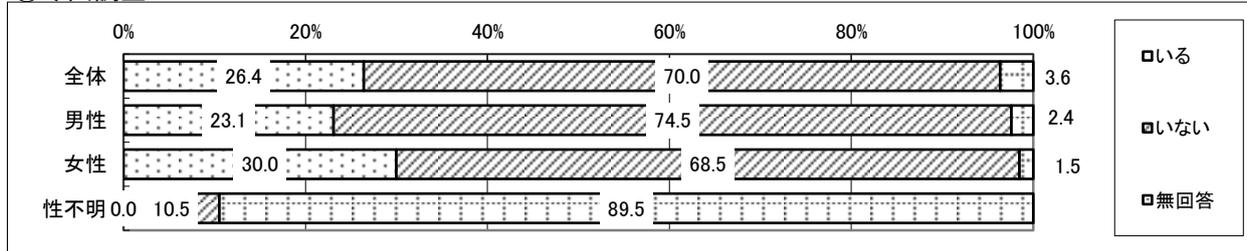
(N=962 いる=254 いない=673 無回答=35)

未成年の子どもが「いる」ものは全体の26.4%、「いない」ものは70.0%であり、前回調査とほぼ同様の傾向である。

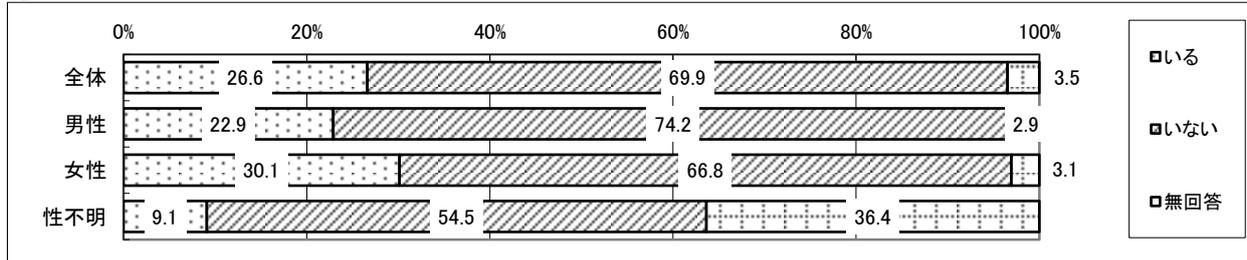
年代別にみると、未成年の子どもが「いる」と回答したものが最も多いのは「40歳代」(59.2%)であり、次いで、「30歳代」(52.8%)、「50歳代」(32.7%)と続く。

前回調査と比較すると1番目と2番目が逆転している。

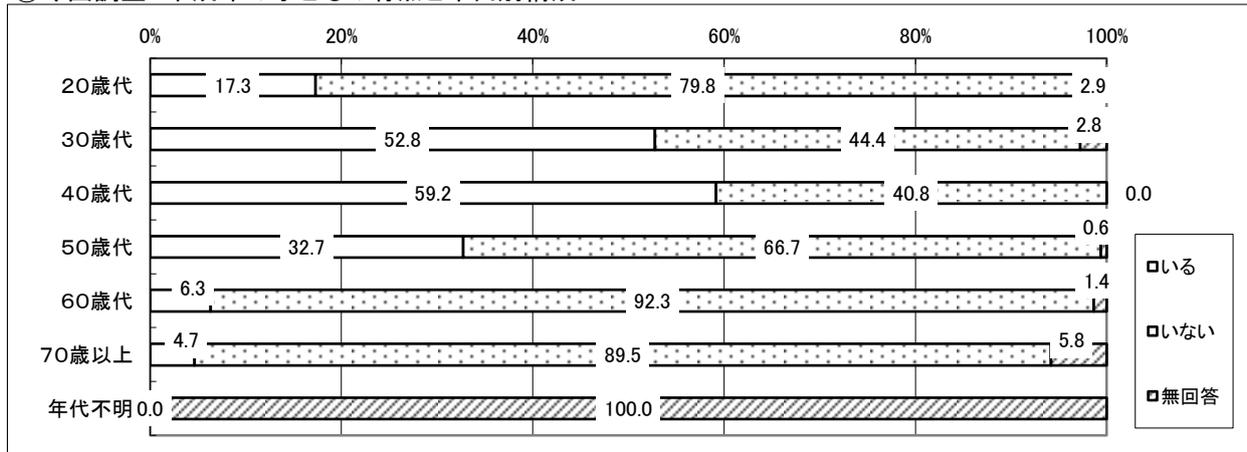
①今回調査



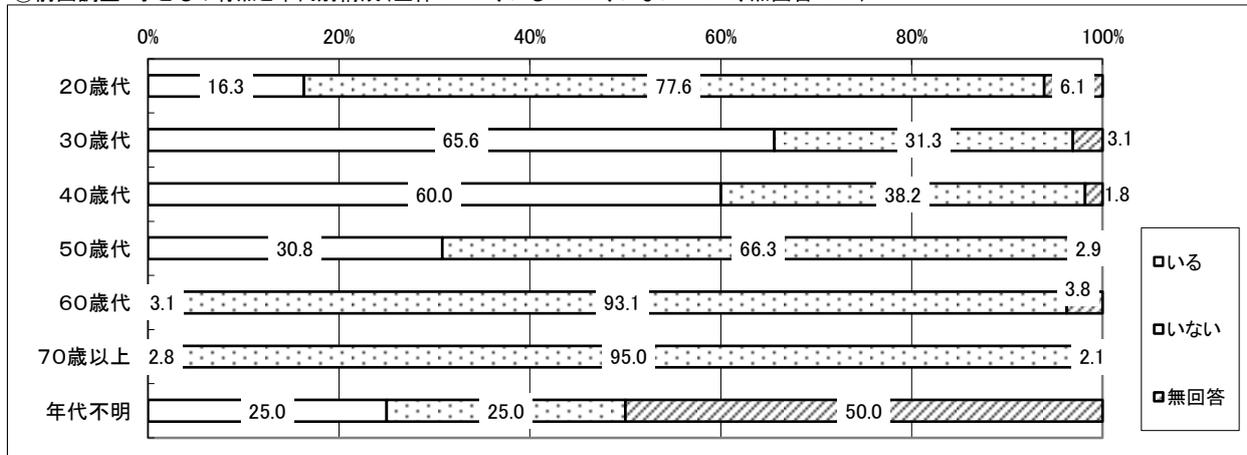
②前回調査(全体N=781、男性N=345、女性N=425、性不明N=11)



③今回調査 未成年の子どもの有無と年代別構成



④前回調査 子どもの有無と年代別構成(全体N=781、いるN=208、いないN=546、無回答N=27)



8 子どもの人数と末子の年齢

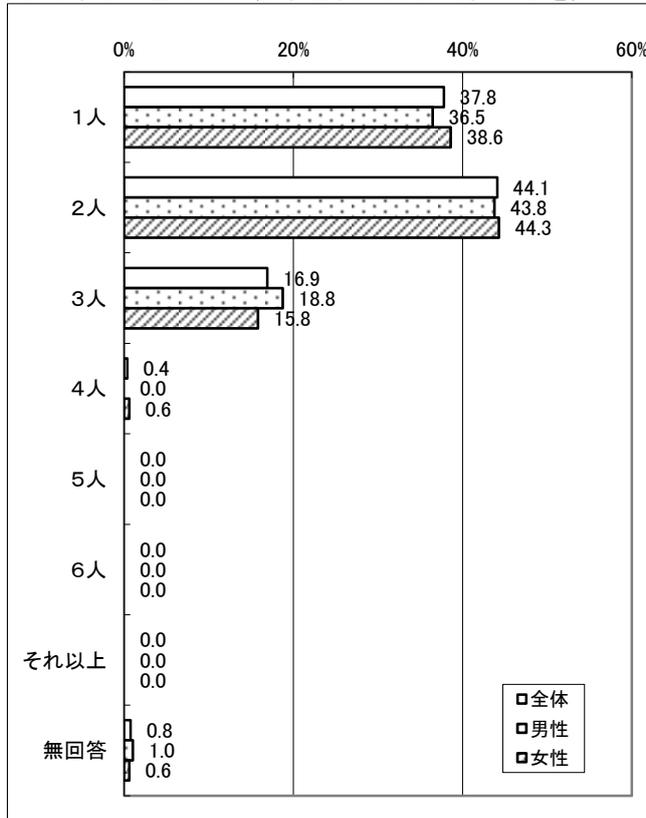
(N=254 3歳未満=53 3歳以上就学前=29 小学生=59 中学生=37 それ以上=75 無回答=1)

未成年の子どもの人数は、「2人」(44.1%)が最も多く、次いで、「1人」(37.8%)、「3人」(16.9%)と続く。前回調査と比較すると、1番目と2番目が逆転している。

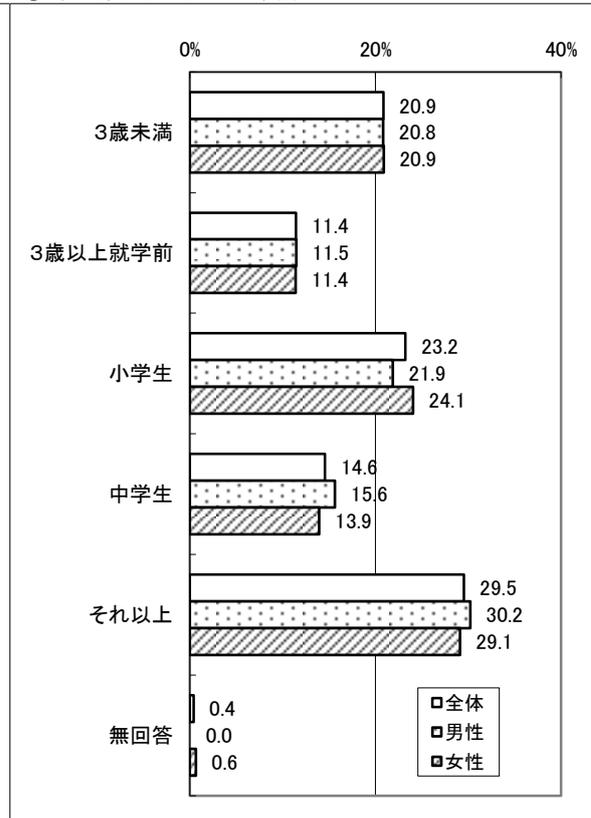
一番下のお子さんの年齢については、「それ以上」(29.5%)が最も多く、次いで「小学生」(23.2%)、「3歳未満」(20.9%)と続く。これは前回調査と同様の傾向である。

①今回調査

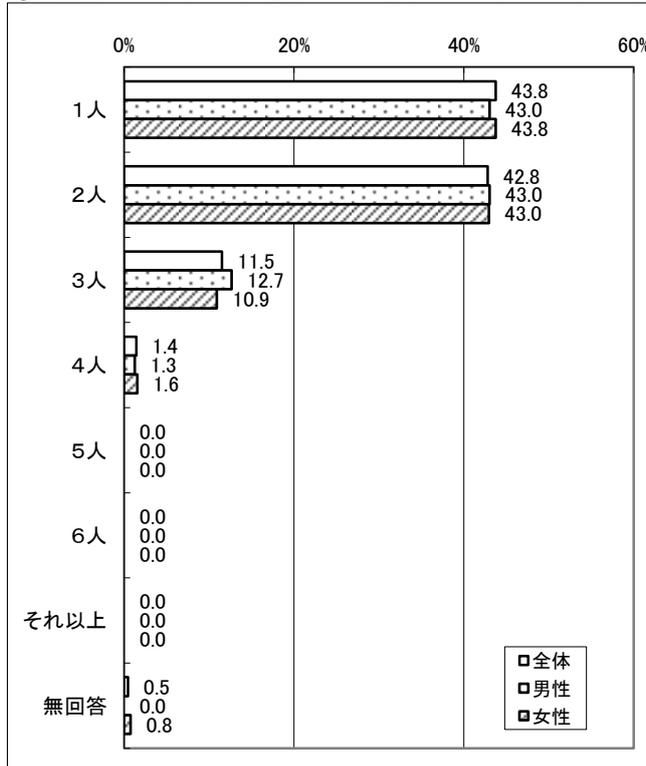
未成年の子どもの人数(但し、グラフから性不明を除く)



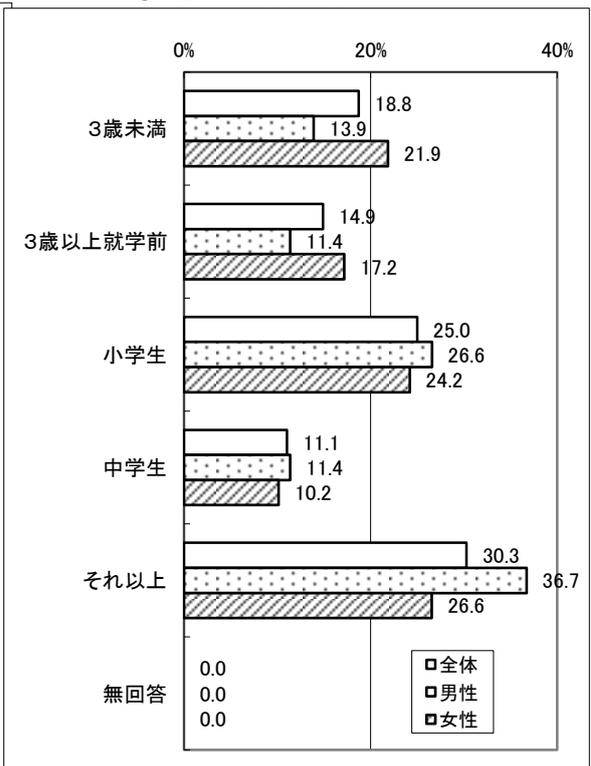
②今回調査 末子の年齢



③前回調査 子どもの人数(全体N=208、男性=79、女性=128、性不明=1)



④前回調査 末子の年齢



9 住んでいる地域 (N=962 男性=416 女性=527 性不明=19)

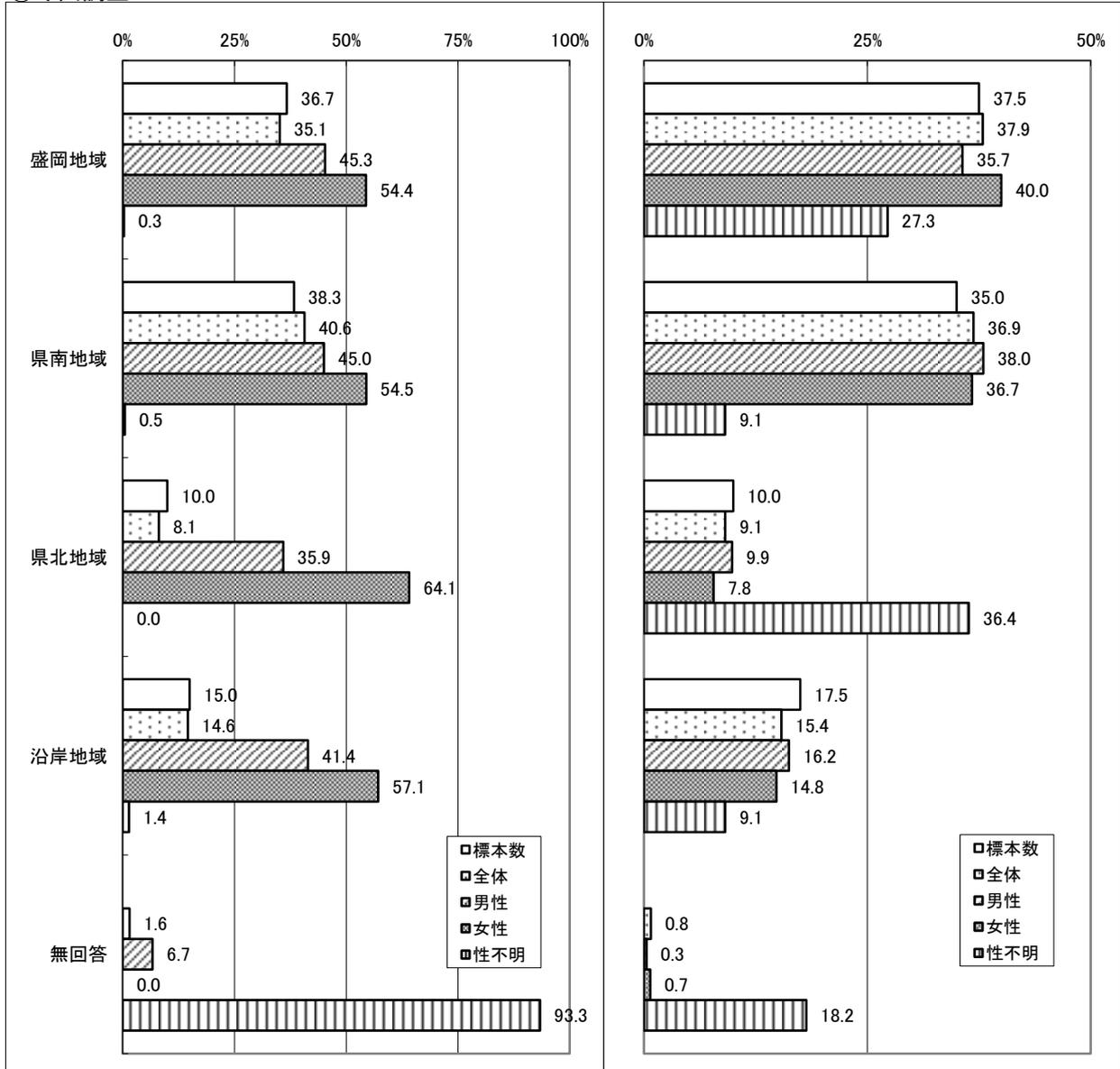
住んでいる地域について、標本数の割合よりも多かったのは「県南地域」(40.6%)であり、その他の地域については標本数よりも少ない割合である。

各地域の性別構成については、すべての地域において、男性よりも女性の割合の方が多かった。

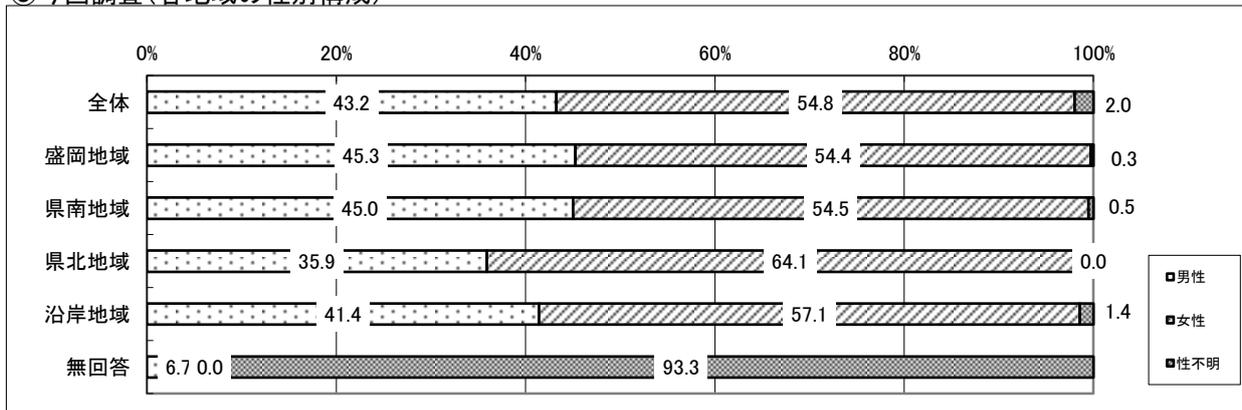
県北地域においては、男性(35.9%)よりも女性(64.1%)の方が28.2ポイント多く、これは他地域よりも大きな差である。

①今回調査

②前回調査(全体N=781、男性N=345、女性N=425、性不明N=11)



③今回調査(各地域の性別構成)



以降、「Ⅲ 調査テーマによる分析」からは性不明の回答を集計から除く。